

第 4 章 配 線

第 1 条 条件

本工事に使用する材料は、J I S ・ J C S 等規格に適合したものを使用しなければならない。また、使用する前は必ず本府の承諾を受けなければならない。

第 2 条 外線工事

1 . 建柱

- 1) 電線路の高さ、電柱の長さ（地上部の高さ）は道路等の規定に従って選定し、建柱しなければならない。
- 2) 電柱は垂直に建て、根入れは全長の1/6 以上で2.5m以内としなければならない。
- 3) 足場釘は地上1.8m以上とし、等間隔で道路方向に平行に打たなければならない。
- 4) 支線の地際の防食は、タ - ル塗装、亜鉛メッキ等で処置しなければならない。

2 . 架線

- 1) 高圧線は、低圧線の上に別途の腕金に架線しなければならない。
- 2) 地表上の高さは十分で、たるみは所定のとおりで各線が一致していなければならない。

第 3 条 ケ - ブル工事

1 . 地中埋設

イ) 管 路

- 1) 管の接続部は、防水および地盤沈下、重量物通過等により、段差ができたり、破壊しないように考慮しなければならない。
- 2) 埋設表示を行わなければならない。

ロ) マンホ - ル、ハンドホ - ル

- 1) 蓋のレベルは周囲の整地面と合っていなければならない。
- 2) 銘板を取り付けなければならない。

2 . ケ - ブルラック

- 1) ラックの吊下げ取付ボルトは、ラックの巾が6 0 0 mm以下の場合は9 mm 以上、ラックの巾が6 0 0 mmを越える場合は1 2 mm以上とし、ラックならびに布設ケ - ブルの重量に十分耐えうるものとしなければならない。
- 2) いんぺい部分は、全面点検できるように考慮しなければならない。
- 3) ラックやケ - ブルの重量が、盤類や機器類に直接加重されるような取付けはしてはならない。
- 4) 耐震壁や防火壁などの貫通部分に対する処理は確実にしなければならない。
- 5) 高低圧ならびに弱電ケ - ブルは、それぞれ十分に隔離、整理し、行先表示、高圧表示を行わなければならない。

3．ピット・ダクト

- 1) ピット・ダクトの蓋は、緊密におさまっており、人が乗っても壊まない十分な厚みを有しなければならない。
- 2) 高圧・低圧・弱電ケ - ブルの隔離は、十分行わなければならない。
- 3) 接続したケ - ブルは、機器の端子に荷重が直接かからないように支持しなければならない。

第 4 条 配管工事

1．共 通

- 1) 管の切り口は、リ - マなどで平滑にし、ネジ切り部は防錆処理を行わなければならない。
- 2) ボックス類は、造営材、その他に堅固に取付け点検が容易に行えなければならない。
- 3) 接地を施す配管は、管とボックス等の間にボンディングを行い電氣的に接続しなければならない。
- 4) 管を送り接続する場合は、カップリングおよびロックナット 2 個を使用しなければならない。
- 5) 配管の 1 区画の屈曲箇所は、4 箇所以下とし、曲げ角度は 1 箇所 90°以下で合計が 270°以下としなければならない。

2．コンクリ - ト埋込配管

- 1) 管を鉄線等で鉄筋に結束し、コンクリ - ト打設時に容易に移動しないようにしなければならない。
- 2) コンクリ - ト打設時に、管に水気、塵埃が侵入しないように、パイプキャップ等で十分養生しなければならない。

3．露出配管

- 1) 管の支持間隔は、鋼製の場合、1.5m以下で、硬質ビニ - ル管の場合22 以下は 1.0m以下、28 ~ 42 は1.2m以下、54 以上は1.5m以下としなければならない。
- 2) 長辺の長さ250mm 以下を除くプルボックスの支持点数は、4 箇所以上としなければならない。
- 3) 金属管の塗装は、調合ペイント2 回塗りを標準としなければならない。